

2021. 9.25 (土)  
ハイブリッド  
研究局長 楠橋 佐利

## 支部研究局 2021 年度方針

◇支部研究テーマ「すべての子どもが運動文化の主体者となる授業づくり」  
◇研究局方針①同志会の研究成果を、**支部研究・実践を中心に**学ぶ。  
②実践づくりを集団的に進める  
③支部研究部、各ブロック、プロジェクトの研究を広げ、深める。

### 1. 今年度の研究活動

#### (1) 昨年度を振り返って

- ① 昨年度の支部例会「おもしろ体育スクール」より
  - 12/5 バasketボール講座 (佐々木さん)
  - 1/30 跳び箱講座 (安武さん)
  - 5/23 幼年実践報告 (幼年P 井上さん)
  - 6/12 集団マット講座 (楠橋さん)
  - 6/26 障害児体育講座 (障体P 辻内さん)

#### ② プロジェクト研究…衰退気味

#### ③ 民舞教室

昨年度

「『民舞教室の資料代が、支部財政の屋台骨』であったというこれまでの状況も、この機会に転換してく必要があるのではないか。」(古川氏)

と、総括されているように、コロナ禍における「研究と財政の相関関係」を見直す1年になると思われる。

#### ④ 支部大会

昨年度の支部大会が9月に開催予定。北河内ブロックでの開催となる。現在、実行委員会を中心に、オンライン開催に向けて日程・分科会設定・参加方法等について、検討中。

#### ⑤ ブロック活動

ブロックにおいては、支部大会に向けて「計画⇒実践⇄検討⇒報告」という研究の流れが見受けられる。その一方で、ブロック員が少なく、そういった研究体制や報告につながる実践づくりが困難なブロックもある。支部大会のシステムも含め、今後、どのような活動(支部大会分科会も含めて)設定をしていくか、支部全体で議論していく必要がある。

#### (2) これからの研究活動

来年度も、1つの会場に参加者が集まる形態の例会実施は、難しい状況にあることが予想される。引き続き、オンラインを活用した例会が中心となっていくのではないかと。

現在の支部体制から鑑みて、研究局に多くの人員を配置することはできないだろう。その研究局が独自の例会を企画することは大変難しい。今年度同様、ブロック、プロジェクトの研究活動と協同して例会を運営していくことが必要になってくると思われる。

また、ブロックの研究活動をサポートしていくという面では、研究局がアテンド役となることはできるだろう。ブロックの実践に向けて、「学習会の講師派遣や実践助言役を手配する」という、サポートを行うのである。必要があるかは、ブロックの研究活動がスタートしないと判断できないが、そのようなサポート体制が存在することは、会員個人にとってもブロックにとっても、プラスになってくる。

いろいろ述べさせてもらったが、私は今年度で研究局長を退任するので、次のメンバーには思い切った研究体制を組んでもらって、支部研究を活発化させてもらいたい。(古川氏)

これは、前年度の総括の中で前研究局長の古川氏が書いたものである。さらに研究部の活動内容と局の活動は、多くがリンクし、行われてきたことから考えて、ここは大木君活動を転換することが必要になる。そのための1年とする必要を感じる。継続的な研究部活動については、次のようなものが考えられる。

#### ① 運動会分科会以降の運動会研究を継続する。

- ・今年度の運動会の動向と部員それぞれがどのように運動会に向き合うか
- ・子ども、教師、保護者が何に重きを置いて運動会を迎えるか?

#### ② 「教師も子どもも…授業づくり」の継続?

#### ③ 実践に至るまでの理論研究

6月に予定されていた研究部例会は、コロナ禍による緊急事態宣言発動により、延び延びになっていた支部例会としての北河内ブロック主催あるオンラインでの「集団マット学習例会」

に変更した。(北河内主催の例会については、研究部報告にゆだねる。) そのため、予定されていた6月12日(土)の研究部主催例会は、次年度に持ち越しとなった。しかし、本年度北河内で開催される支部大会も、昨年度と同様、次の年度をまたぐ形で9月に開催されるため、その支部大会が終わった後に研究部例会が行われることとなった。そのため、中間総括では、

- ① 研究部員1人1実践を行うことを目標とする。
- ② 実践教材についての研究・学習(予備知識も含めて)を具体化するために、先行実践を積極的に活用する。(そのための情報収集)

というスタンスは、今年度に限りは、変えない方針としていたが、このコロナ禍における年度またぎ、延び延びになる例会運営に、どこかで区切りをつけなければならず、さらに来年度の支部体制が大きく変化することも予想されるため、今年度の例会を持ち越す、というかたちではなく、来年度の体制の中で例会を企画・リセットする必要があるのではないかと考える。そのための話し合いは、新しい研究局・研究部のメンバーで行われなければならない。大瀬良実践も、運動会実践も来年度には申し送るが、新しい体制で全く新しい試みを行うことも重要であり、研究部活動も大きな岐路を迎えるのではないかと考える。

### (3) これらを受けての研究局の方針の検討

一昨年度、昨年度と研究部長を引き受けて、活動の難しさを感じた。そこから考えるに…

- ①研究部主催の支部例会年3回は、無理がある。(研究部メンバーの実践を支える前に、月1回の参集活動さえ難しい。)
- ②ブロック研究の活性化と、その研究内容から学ぶことが必要ではないかと考える。
- ③運動会研究の継続と、その方向性を、実践という形で行えるか…。
- ④世代交代に耐えうる同志会実践への振り返りや背景にある理論の研究の必要性。

これらの課題に対して、焦らず、じっくりと取り組むために

## 2.新年度(2021年度)研究局活動方針

- ①年間7回の支部研究例会の回数を4回とし、ブロック例会を例会(おもしろスクール)として位置付ける。

☆各ブロックから実践報告、実技例会、研究講座、年間研究の成果報告など、どのような形で例会を運営するか方針を決め、その報告をもとに研究局の年間計画を決定する。

- ②研究部は、月1回の研究部会議において、これまでの同志会の研究成果や理論の学習会を行う。(学習会として位置付けるため、研究部以外からの参加も可能にする。

☆学習の成果は、報告として支部ニュースに紙面を割いてもらう。(1/4~1/2ページで)

### ③支部例会の主な日程(案)

- 11月20日(土)
- 1月29日(土)
- 4月16日(土)…新任教員や会員外対象の実技例会
- 6月11日(土)

☆昨年度から継続研究の「運動会実践」についても視野に入れて研究する。